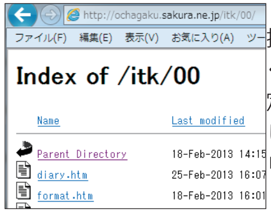
1. ハイパーリンク

html（HyperText Markup Language）のハイパーテキストとは、リンクできる文章のことです。それまで大変だった別マシンへのアクセスがリンクが可能になったことで誰もが簡単に関連ページを開くことができるようになり、インターネットの発展につながりました。
リンクはテキストであればアンダーライン (画像では枠線) などで示され、さらに他とは異なる色 (訪問済・未訪問等状況によって異なる) で区別されます。
リンク部分をクリックするとそのリンクに指定された URL のページが開きます。
元のページに戻るにはブラウザの戻るボタンを使用します。

2. サーバー上の index ファイル

サーバー上でファイルを開くには正しいフォルダ名 / ファイル名を入力する必要があります。ファイル名を省略しフォルダ名だけで開くと、設定により以下のようになります。

- **フォルダ内のファイル一覧のリストが表示される**
- **エラーメッセージが返されアクセス出来ない**



授業用サーバーではファイルに簡単にアクセス出来るよう、フォルダを開くとファイル一覧が表示され、それをクリックする事でアクセス出来る設定にしてあります。
しかし、この状態はすべてのファイルにアクセスできてしまうためセキュリティ上問題があります。

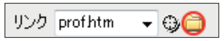
一方、その名前をつけたファイルがフォルダ内に存在すると、ファイル名を省略しフォルダ名だけでそのファイルが自動的に開かれる特殊な名前があります。それが index.html という特別な名前のファイルです。

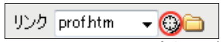
- **index.html(.htm) というファイルがある場合そのファイルが開かれる**

すなわちフォルダ毎に「index」という名前の html ファイルを用意することで、フォルダ名を入力するだけでファイル一覧の代わりに自動的にこのファイルが開かれ、他のファイルも隠すことができます。
フォルダ名だけでアクセスできるこのファイルを通常はそのフォルダ (コーナー) のトップページとします。
リンクを張られていないファイルには（ファイル名を知らない限り）アクセスできなくなるため、アクセスさせたいファイルには記述者がリンクを使い正しく指定をしなければなりません。

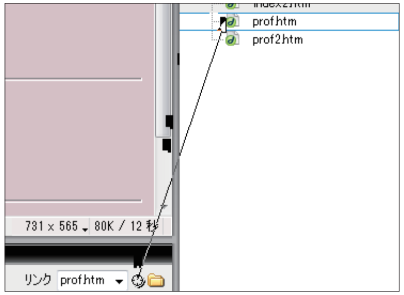
3. Dreamweaver でのリンクの設定〔相対パス〕

DW ではプロパティインスペクタを用いてリンクの指定を行います。
テキストにリンクを張る場合まずリンクを貼りたい部分をドラッグして指示し、プロパティインスペクタのリンク欄で以下の 2 つの方法からリンク先を指定します。

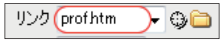
- **オープンダイアログ** 

  フォルダアイコンをクリックしオープンダイアログから開きたいファイルを指定します。
- **ターゲットアイコン** 

  ターゲットアイコンからファイルパネル上にある開きたいファイルへドラッグで指定します。

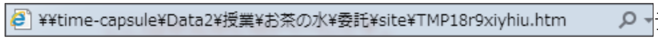


以上のどちらかでリンク先のファイルを指定するとプロパティインスペクタのリンクテキストボックスに記述中のファイルからリンクしたいファイルまでの経路**（相対パス）**が記入されテキストがアンダーライン表示されリンクが張られます。このテキストボックスに直接リンクしたいファイルまでのパスを記述することでもリンクを指定出来ます。

- **リンク欄に記述する** 

4. リンクの確認（ブラウザでプレビュー）

DW のドキュメントウインドウではクリックやドラッグによる編集を可能にするためリンクの確認ができません。リンクを確認するためにはブラウザで開き確認する必要がありますが、ファイルメニューのブラウザでプレビューを選ぶとブラウザからファイルを指定しなくても当該ファイルが開かれて確認できるようになっています。
さらに保存しなくてもプレビューが行えるので保存する前の状態を残したまま確認を行うことができます。
この際、保存せずにブラウザで開くためには何らかのファイルが必要なため、一時的にテンポラリファイルを作成し、それを開いています。通常このテンポラリファイルは DW 終了時に削除されますが、強制終了してしまった場合などにはこれが残ってしまうので TMP で始まるこうしたファイルが残っていた場合削除しましょう。



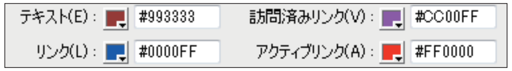
テンポラリファイルの例

5. リンクカラー（ページプロパティ）

リンクテキストはここがリンク可能だということを閲覧者に理解させるため様々な表示上の工夫がこらされます。アンダーラインがついたりカーソルの形が変わる他、色も変えて他と区別しやすくなっています。

色は以下の状態で変化します。（DW での設定名：デフォルトカラー）

- **未訪問（リンク：青）**
- **訪問済み（訪問済みリンク：紫）**
- **クリック中 (アクティブリンク：赤)**



デフォルトカラーを変えるにはページプロパティで設定します。

6. 画像によるリンク

ボタンなど画像にリンクを設定したい場合は画像を選択した状態でプロパティインスペクタからリンクを指定します。これで画像タグの前後にリンクのタグがつけられたリンク付き画像となります。プロパティインスペクタ上で画像のソースの場所とリンクの場所が近く、同じボタンが並ぶので間違えないよう注意しましょう。ソースが画像の場所、リンクがリンクしたいファイルです。

リンクを設定した画像にはボーダーがつきますが、通常はボタン画像などリンクだと判るデザインが施されているため、くどくなるのを防ぐためボーダーを 0 に設定し枠線を消します。

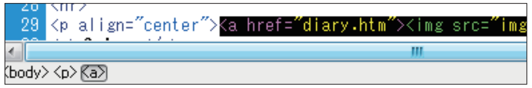
リンクのコピーとタグセレクタ

リンクに使われるパスの記述は同一フォルダ間であれば同じなのでコピーが使えます。

設定されたリンクはテキストや画像と共にコピーすることができます。

画像に張られたリンクのように複数のタグが使われている場合、選択されているのが画像だけなのかリンクも含まれているのかがレイアウトビューでは判断できません。

そのような場合ドキュメントウインドウ左下にあるタグセレクタを使うと、どのタグを選択するかを簡単に選べます。この場合、リンクを表す <a> のタグをクリックしてコピーすると、そこに挟まれた画像も一緒にコピーすることができます。



7. 外部サイトへのリンク〔絶対パス〕

インターネット上のファイルにリンクを張る場合ファイルパネルやダイアログで指定することはできません。こうした場合、ファイルパネルに実際に HTML でするようにリンク先の URL を記述します。とは言ってもブラウザのアドレス欄から URL を全選択状態でコピーしプロパティインスペクタのリンク欄にペーストするだけです。

アクセス方法 ://PC〔サーバー名〕/ フォルダの階層をトップから順に示すこの記述法を**絶対パス**と言います。

この表記法では途中のフォルダ名が変わるだけでもアクセスできなくなってしまうため、公開したファイルやフォルダの名前を後から変えることは極力避けなければなりません。

このような理由もありファイル名や保存場所などの設定は慎重を要します。

絶対パスではインターネット上ファイルだけでなく自身の PC のファイルでも記述できますが、自身のウェブサイトの場合ローカルで作成しサーバーへと PC が移動することが前提で、ルートの PC のアドレスが変わってしまうためこの表記法は使えません。

この方法をつかうと DW 管理外のフォルダにもリンクを張れるので、管理フォルダ以外のファイルをコピーしなかった場合や、記述中のファイルが保存されていなかった場合など DW はこの方法で強制的にリンクさせています。
しかし、アップロードできるのは DW 管理フォルダ内のファイルだけなのでサーバーにアップロードする時点でリンクは効かなくなります。

`<img src="file://///TIME-CAPSULE/Data2/授&#269` （例）

file:/// ～で始まる記述が残っていた場合サーバーでリンクが出来ないのでこれを見つけたら正しくリンクを張り直しましょう。

リンク設置時の留意点

物理的にページをめくれるワープロ書類に対して、ウェブページは記述者が正しくリンクを記述しないことには閲覧者はそのページにたどり着くことすらできません。

さらに、使用頻度の高いリンクはスクロールしないでも使える場所に置く、各ページで混乱しないように同じ場所に置くなど**使い勝手**にも考慮する必要があります。